

試食おばさん

私（山本）：18歳 か弱い女性
パートのおばちゃん（田中）：40代前半 優しい
店長：30代後半男性
試食おばさん：40代後半小太りのおばさん
男の子：5才くらい わんぱく
親：35才くらい女性 しっかりしている雰囲気

1コマ

私が学生のときにスーパーでアルバイトをしていたときの出来事。
昔から馴染みのお店であり家から近いということもあってここで働くことになった。
私「今日から働かせていただくことになりました山本です。よろしくお願いします。」
パートのおばちゃん「山本さんね、よろしく。なにか分からないことあったらいつでも何でも聞いてね」
初めてのアルバイトで緊張していたけど、みんな良い人そうだし頑張れそうと感じていた。

2コマ

私は品出しやレジ打ちなどを担当することになり、作業こなしていったものの初めてということもあり、覚えるのも多く慣れるまで大変だった。
私（うう・・・足が痛い・・・）
立ち仕事に慣れていない私は足のむくみも気になりだしてきた。

3コマ

私「田中さんは足のむくみとか気になったりしないんですか〜？」
パートのおばちゃん「うーん、そうねえ。私も最初は足が辛かったんだけど・・・マッサージとか毎日し始めてからそこから気にならなくなったかな」
私「マッサージかぁ・・・」
田中さんからアドバイスを受けて私も身体に気を遣うことにした。
疲れはあるけど、周りの環境にも恵まれ仕事にそれなりにやりがいは感じていた。

4コマ

仕事も順調に覚えてきたころ、バックヤードで帰り支度をしていると店長から・・・
店長「あ、山本さんお疲れ様。いつもしっかり働いてくれてるね。ほんと助かってるよ。ありがとう。」
私「い、いえいえ、まだミスしてしまうこともあり私なんて全然・・・」
と謙虚に返したものの初めて店長から感謝を伝えられ心の底から嬉しかった。

5コマ

店長「そうだ、明日から試食コーナーの販売を任せてもいいかな。いつも担当していた人が辞めちゃって困ってたんだよ。」

私「え、私ですか？は、はい、もちろんです！やります！」
店長の期待に応えたい気持ちと試食コーナーの販売もしてみたかった私は心躍る気持ちで返事をした。

6コマ

次の日・・・私は試食コーナーの売り場を担当することとなった。
私「いらっしゃいませー。ピザの試食を行っております。ご試食いかがですかー」
客A「あ、これおいしいわ」
私「ありがとうございます！こちらレンジでチンするだけなんでお家で簡単に食べれるんですよ」
お客様が試食をしてくれると、他のお客様もどんどん立ち止まり集まりやすくなった。
人と話すことが好きだったので品出し作業よりは楽しいかなと思えていた。

7コマ

人だかりもでき、デモ販売も終盤にさしかかったところそこへ・・・
試食おばさん「あら、今日はピザの試食？おいしそう～。ちょっとそのピザいただくわね。」
私「あ、はい・・・どうぞ！」
他のお客さんと喋っている中、40代くらいの女性がズカズカと割って入ってきた。

8コマ

試食おばさん「う～ん、おいしい～」
私「ありがとうございます。こちらレンジで簡単に・・・」
試食おばさん「あー、大丈夫大丈夫試食するだけだからw」
試食おばさん「それよりこの前食べたピザよりおいしくなったわね」
私が商品のPRをしようとするすると話を遮り、説明いらないアピールしてきたため少しイラついたが態度に出すわけにもいかずそっとすることにした。

9コマ

ただ驚いたことは私が他のお客さんの対応をしている中、その女性はすかさずピザを3個、4個と手を伸ばしぱくぱくと口に入れていたのだ。
私が気付いて目を向けたところ彼女はささとその場から離れていった。

10コマ

その後、休憩時間にて・・・
パートのおばちゃん「山本さん、さっきは大変だったね」「ほら、あの人よ、試食をいっぱい食べる人いたでしょ」
私「あ・・・はい・・・」

どうやらスーパーの店員の中では試食を見つけては食べまくるおばさんで有名だったようだ。

話を聞くと店員が目を離した隙にたくさん食べたりしているようで誰もなかなか注意も出来ず手を焼いているらしい。

1 1 コマ

パートのおばちゃん「また今度懲りずに来ると思うからそのときはお客さんから目を離さないでね」

私「そうですね、次はしっかり監視しておきます」

たくさんの人に食べてもらうための試食を一人でこそこそといっぱい食べる人に私は許せない気持ちになっていった。

1 2 コマ

次の日・・・

私「いらっしゃいませー。どうぞ、ご試食いかがですかー」

いつものように試食のデモ販売を行い、誰かが立ち止まってくれるとすぐに人だかりができた。

周りを見渡すと試食おばさんがこちらに近づいてきたのが分かり、またズカズカと他のお客さんを差し置いて割り込んできた。

試食おばさん「おいしそうね、試食させていただくわよ」

私「はい、どうぞ（よーし、しっかり見張っておくぞ）」

1 3 コマ

そんな中、5才くらいの男の子がこちらへ向かってきた

男の子「わー、唐揚げだー。」

私「食べる？」

男の子「うーんおいしーい、お姉さん、もう1個ちょうだい」

親「こら、これは試食で味見してもらうためのものなんだから何個も貰わないの！」

1 4 コマ

すると男の子は駄々をこね始め・・・

子ども「えー、なんでなんで！だってあのおばさんは毎日いっぱい食べてるんだもん」「3個も4個も食べてるんだよ」「ずるいよーずるいよー」

と大きい声で喚き試食おばさんの方を指さした。

試食おばさん「え・・・なによ・・・私は別にそんな・・・！」

見渡すと周りのお客さんがクスクスと笑っていた。

こっそりと食べていたのをまさか見られていないと思っていた試食おばさんは赤面状態になり一刻も早く逃げるかのようにその場を離れていった。

1 5 コマ

それ以来、試食おばさんはめっきりスーパーに現れなくなった。
あの人にはみんな手を焼いていたので男の子には感謝している。
よくスーパーで行われている食品のデモ販売。
いくら試食がタダで配られているからといって一人で何個も食べるのは違うと思う。